



Title	東アジア“生命健康圏”構築に向けて：大気汚染と健康問題を考える日中国際会議
Author(s)	
Citation	OUFCブックレット. 2015, 6, p. 231-232
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/51441
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



東アジア“生命健康圏”構築に向けて 大気汚染と健康問題を考える日中国際会議

2014年10月24日（金）

ポスター発表：9:00-11:00

シンポジウム：13:00-18:00

場所：大阪大学豊中キャンパス
大学会館アセンブリホール

世界は、地球温暖化、資源枯渇や生態的多様性の喪失をはじめ、大気汚染、土壌汚染、ゴミによる水質・生活環境の汚染、砂漠化などさまざまな環境問題に直面している。環境問題には地域に限定したものもあるが、多くは地域を越えて影響を及ぼし、グローバル化している。21世紀の環境問題の主たる特徴は、グローバル環境リスクである。

シンポジウム：プログラム

【モデレーター】

恵沁夫（大阪大学 グローバルコラレーションセンター・特任准教授）

【パネラー】

鄭美香（北京大學 医学部公衆衛生学院・教授）

「北京市における大気汚染と健康被害」

藤田宏志（環境省 水/大気環境局気環境課・課長補佐）

「大気汚染問題の歴史的推移及びグリーン・エア・アジアの現状と課題：日中の国内外におけるPM2.5問題と国際協力を中心に（仮）」

王小龍（中国農業大学・人文発展学院法律系・副教授）

「法律システムの構築から中国の未来に向けた環境対策を考えよう」

松本充郎（大阪大学 国際公共政策研究科・准教授）

「日本における大気汚染問題への法的対応に関する一考察」

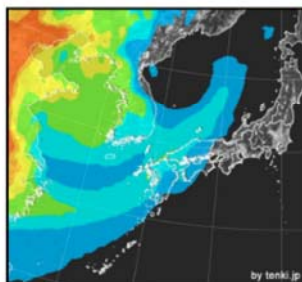
「四日市ぜん息からPM2.5問題へ」

【ディスカッサント】

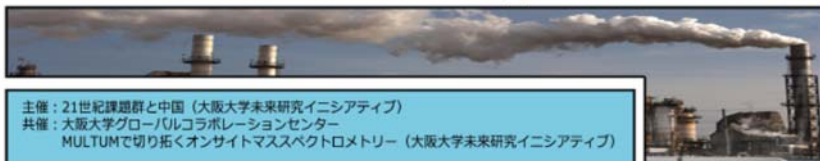
曹田峻（大阪大学 理学研究科・教授）

上須道徳（大阪大学 環境イノベーションデザインセンター・特任准教授）

田口宏二郎（大阪大学 文学研究科・准教授）



PM2.5など東アジアの大気汚染問題は、国境を越えて大きな注目を集めているにも関わらず、最も深刻な北京の健康被害状況や地域の取り組みが今日どのような状況にあるのかは、ほとんど知られていない。今回のシンポジウムでは、長年、北京の健康被害について調査研究し、最前線で活躍する中国の研究者と大阪大学の文系・理系の研究者が一所に集い、専門領域や国境を越えて、具体的な取り組みや依拠するにたる情報やデータをもちより活発な議論を期待する。



主催：21世紀課題群と中国（大阪大学未来研究イニシアティブ）

共催：大阪大学グローバルコラレーションセンター

MULTUMで切り拓くオンサイトマススペクトロメトリー（大阪大学未来研究イニシアティブ）



お問い合わせ：c-forum@law.osaka-u.ac.jp

ポスター発表 (9:00~11:00)

- ・ 姉崎正治 (人間科学研究科DC)、山本高郁 (工学研究科)、三好恵真子 (人間科学研究科)
「世界の小規模金採掘 (ASGM) の実態とZero Mercury化に向けての実践研究」
- ・ 三好恵真子 (人間科学研究科)、胡毓瑜 (人間科学研究科DC)
「旅送におけるカオス解析から判別する精神疾患患者の特徴及び中国における心理問題への応用展開の可能性」
- ・ 胡毓瑜 (人間科学研究科DC)、三好恵真子 (人間科学研究科)
「舟山群島新近海域における漁業資源の現状と海洋生態の保護・修復への展望：漁民の現行制度・生態に対する認識と意見に関する分析」
- ・ 岸本紗也加 (工学研究科)、馬庭泰介 (工学研究科MC)
「モンゴル・ウランバートルから語る大気汚染」
- ・ 川口奈穂 (人間科学研究科MC)
「ゴラン高原におけるドルズ教徒の生活空間とコミュニティのゆらぎ：境界に生きる人々」
- ・ 日下部龍介 (在中国日本国大使館広報文化センター)
「中国北京市におけるソーシャルメディアを利用した健康観の形成過程」
- ・ 松村悠子 (人間科学研究科DC)
「新エネルギー開発を活かした地域振興は可能か？：沖縄県宮古島の事例からの一考察」
- ・ 川原賢太 (ほか5名) (工学研究科MC)
「Structuring the haze problems in Indonesia」
- ・ 古谷浩志 (理学研究科)、紀本岳志 (紀本電子工業)、豊田峻聡 (理学研究科)
「謎のPM2.5汚染を探る：先端質量分析技術の挑戦」
- ・ 佐藤諒 (人間科学研究科MC)
「原子力損害賠償制度の分析：古典的自由主義からの一考察」
- ・ 橋高彰斗 (人間科学研究科DC)
「生命が共有し得る価値とは何か：ラスキンの固有価値論を基礎として」
- ・ 潘鈺林 (人間科学研究科DC)
「中国蘭州市の大気汚染改善に関するフィールドワークからの分析評価」
- ・ 西川優花 (人間科学研究科MC)
「イラン・ザンデルド川をめぐる水危機と人々の暮らし」
- ・ 高月 (国際公共政策研究科MC)
「中国杭州市の水質汚染問題の現状と課題」

※進行：恩沁夫 (GLOCOL)

●電車【南海宝塚線】
石橋駅下車 徒歩15分

アクセス
大阪大学豊中キャンパス



●大阪モノレール
泉陽駅下車 徒歩15分

東アジア“生命健康圏”構築に向けて

大気汚染と健康問題を考える日中国際会議

2014年10月24日 (金)

ポスター発表: 9:00-11:00

シンポジウム: 13:00-18:00

場所: 大阪大学豊中キャンパス大学会館アトリウムホール

